

通信学習で合格するための4つのポイント

1 「学習スケジュール」を確立させよう

～ 通信受講の最大のメリット 「いつでもどこでも学習できる」 ～

通学にかかる時間のロスもなく、好きなとき、好きな場所で学習できることが通信受講の最大のメリットです。しかし、それは何もかも自分自身で決めなければならないということの裏返しです。

さて、講義が始まって、はや3ヶ月。計画通りに学習できていますか？

そろそろ、はじめにたてた計画がつかなくなる頃でないでしょうか。それは、最初の頃はやる気いっぱいなので少し無理な計画をたててしまったからだと思われます。でも、まだまだ先は長い！このあたりでもう一度、計画の見直しをしてみましょう。

ポイント 1週間に確保しなければならない学習時間は最低20時間以上！

・講義1回3時間 × 週2回 = 6時間

・計算の復習・理論の復習・理論の暗記

平日 2時間×3日＝6時間

休日 4時間×2日＝8時間

これまでの計画を振り返ってください。学習時間が…

(1) 週20時間より少ない場合

→ 学習時間を増やしましょう。復習不足だと講義に遅れてしまいます。

(2) 週20時間以上の場合

→ 計算・理論の学習時間の配分は…

① 得意な論点ばかり学習している場合

→ これは、いけません。意識して苦手な論点に時間を振当てましょう。

② どちらの論点もきちんと学習している場合

→ 偏りのない学習が合格への近道です。しかし、法人税法は論点が非常に多いため、「苦手論点6、得意論点4」くらいで学習時間を割振るとよいでしょう。

	月	火	水	木	金	土	日
9-12							
12-15							
15-18							
18-21							

2 積極的に質問しよう

～ 通信受講のデメリット その1 「質問がしにくい」 ～

通学生は講義の前後、休憩中に講師に質問できますが、通信生はそういうわけにはいきません。疑問が積み重なると、その論点の理解はストップしてしまいます。通学生以上に積極的に質問する機会をつくるのが大切です。質問電話や i - s u p p o r t の活用をお勧めします。

3 コミュニケーションを図ろう。

～ 通信受講のデメリット その2 「他の受講生の状況がわからない」 ～

通学生は普段の講義やミニ・実力テストを通じて、周りの状況を普段から肌で感じることができますが、通信生はそういうわけにはいきません。

想像してみてください…。本試験会場でのあの独特な雰囲気を…。

ピリピリした周りの空気に飲まれて、知識があっても実力を出せない…なんて絶対にダメです。普段は通信受講でも、たまにはスクーリングなどに参加して緊張感を前もって体験しておきましょう。全国公開模試などもご自宅からでて、会場で受験することをお勧めします。

4 添削答案は必ず提出しよう

～ 実力テストや答練などの添削問題は時間をはかって解答・提出 ～

敵を倒すには己を知ること！自分の実力を客観的に知ることが大切です。

- ① 知識・理解の確認 ② 成績・順位

→ 総合問題を解くことで苦手論点や学習の遅れを確認！効率よく得点するため解答の手順などを考える材料にしましょう。

- ② 理論と計算の時間配分 ④ 文字の見やすさ ⑤ 答案の書き方

→ 試験は知識だけでは合格できません。その知識を答案に適切に書き表してこそ合格できるのです。添削を受けることで、合格できる答案に仕上げましょう。